

行政視察報告

議会運営委員会

8月19日～22日にかけて、沖縄県南城市・与那原町・北谷町・読谷村・南風原町の視察研修を行った。

南城市は、県内の自治体としては2例目、市議会では初となる「議会基本条例」を平成24年6月に施行した。

特徴としては、議案審議等の質疑・討論・採決において、議員間で課題・論点を導き出す「議員間討議」を明記し、市民に対して議決責任・説明責任の義務を果たすことを議会改革の第一の責務としている。

北谷町では、「開かれた議会」を目指し、議会の情報を積極的に公開して、地域住民の議会への関心を高めるような取り組みが行われている。

主なものとしては、議会関係書類を各公民館へ事前配布し、議会中はインターネットを活用し、庁内の中継はもちろん、町内52カ所の公共施設等で議会の審議状況を常時視聴することができ、随時町民からの問い合わせに、対応できる体制ができています。

読谷村は、県内で初めて「議会基本条例」を平成21年10月に施行した。

特徴としては、議案に対する各議員の態度（賛成・反対）を議会広報で公表し、議会報告会を年1回開催することが明記されている。



南城市での研修

与那原町・南風原町においては、基本条例制定を目指す一環として、町民と議員が意見交換する「一般会議」や「議会活動報告会」を議会で初めて実施し、条例制定へ向け、既に動き始めていた。今回の視察で、改めて議員一人一人が市民に対しての議決責任・説明責任の義務を果たす必要性や、「開かれた議会」を推進していく上で、今後、参考とすべき点が多々ある大変貴重な研修となった。

8月6日～9日にかけて、沖縄県うるま市・宜野湾市・恩納村の視察研修を行った。

うるま市では、トライアスロン大会の実施状況についての研修を行った。毎年6月と8月に大きな大会を実施しており、年々参加者は増えている。大会前には、教室

8月6日～9日にかけて、沖縄県うるま市・宜野湾市・恩納村の視察研修を行った。

民生文教委員会



恩納村での給食センター視察

を開催するなど事故防止等に注意・徹底をしている。

本市も8月に第1回目を開催したが、課題も残り今後の参考になる点は多かった。

宜野湾市では、国保事業等についての研修を行った。

昨今、問題となっている滞納者への取り組みでは、税の軽減や減免等を行い、負担軽減を図っている。また、担税力のあ

る滞納者に対しては、「国保収納対策プラン」を策定し対応している。またジェネリック医薬品の普及率は、本年5月現在約38%と高く、医療

費削減効果が年々表れてきている。

恩納村では、平成15年7月に県内初のオール電化の学校給食センターを建設した。

特徴としては、加熱調理機器からの燃焼排気熱がなくなり、常に室温25度以下、湿度80%以下に保ち、クリーンで快適な環境での作業が可能となっている。また、下処理で出た残飯などの生ごみは、廃棄処分せず固液分離した後、生ごみ処理機でリサイクルしている。

オール電化のメリットとしては、安全であり、事故の場合、復旧に時間がかからないことである。本市の学校給食センター建設計画においても学ぶべき点が多々あった。

今回の行政視察が、今後計画している事業や建設等の取り組みに積極的に生かしたいと委員一同誓い合い、報告としたい。